

令和7年度 一般選抜（前期日程）個別学力検査 小論文

解答例

問1

私は中学生の頃から徐々にものが見づらくなり、視覚障害者になりました。最初の頃は、今まで自分でできていたことが出来なくなり、つらい思いもしました。しかし、目に頼らなくなった分、手触りや音などの微細な変化を感じ、さまざまな情報を役立てられるようになりました。また、点字や音声ガイドといった新しいツールを活用するようになり、行動範囲も広がりました。そして、周囲の人々からのサポートを受け、思いやりや協力の大切さを再認識し、社会福祉について考えるようになりました。これまで見えなかった人々の優しさや自分の感覚に気づき、「弱さ」が可能性を拓く鍵になることを実感しています。（281字）

問2

情報セキュリティ対策には、何でも解決できる「賢者の石」は存在しないと考えられる。現状の課題を冷静に分析し、目先の解決策の限界を認識することが重要である。情報セキュリティは多くの専門領域が複雑に絡み合っており、特定の領域のわずかな改善が全ての課題を解決するわけではない。表面的な症状に対処するのではなく、問題の根本原因を解明することが重要だろう。既存の枠組みから離れ、何も無いところから考え直すことも必要となる。さらに、様々な分野の知見を参考にしながら、地道に対策を積み重ねることも重要である。経済学や経営学の視点から情報セキュリティ問題を検討することで、新たな発想や解決策が生まれる可能性がある。（298字）

問3

私は、本文の内容である、一所懸命学問をしても無駄ではないという考えに賛成です。その理由として、一所懸命学問に取り組むことで、取り組む前よりも知識が豊かになり、またその知識をもとに経験を重ねることによって、もっと多くのものに興味や関心を持つことができるようになり、自分の生き方がより充実したものになると考えるからです。年齢の高低や業績の大小にとらわれず、今の自分に足りないものを自覚して真摯に学問に取り組むことによって、本文のように自分自身が本当の人間になるために正しい方向に進むことができると考えています。（253字）